



慈惠

兩大師傳記



三



教林文庫

文庫 7

169

3

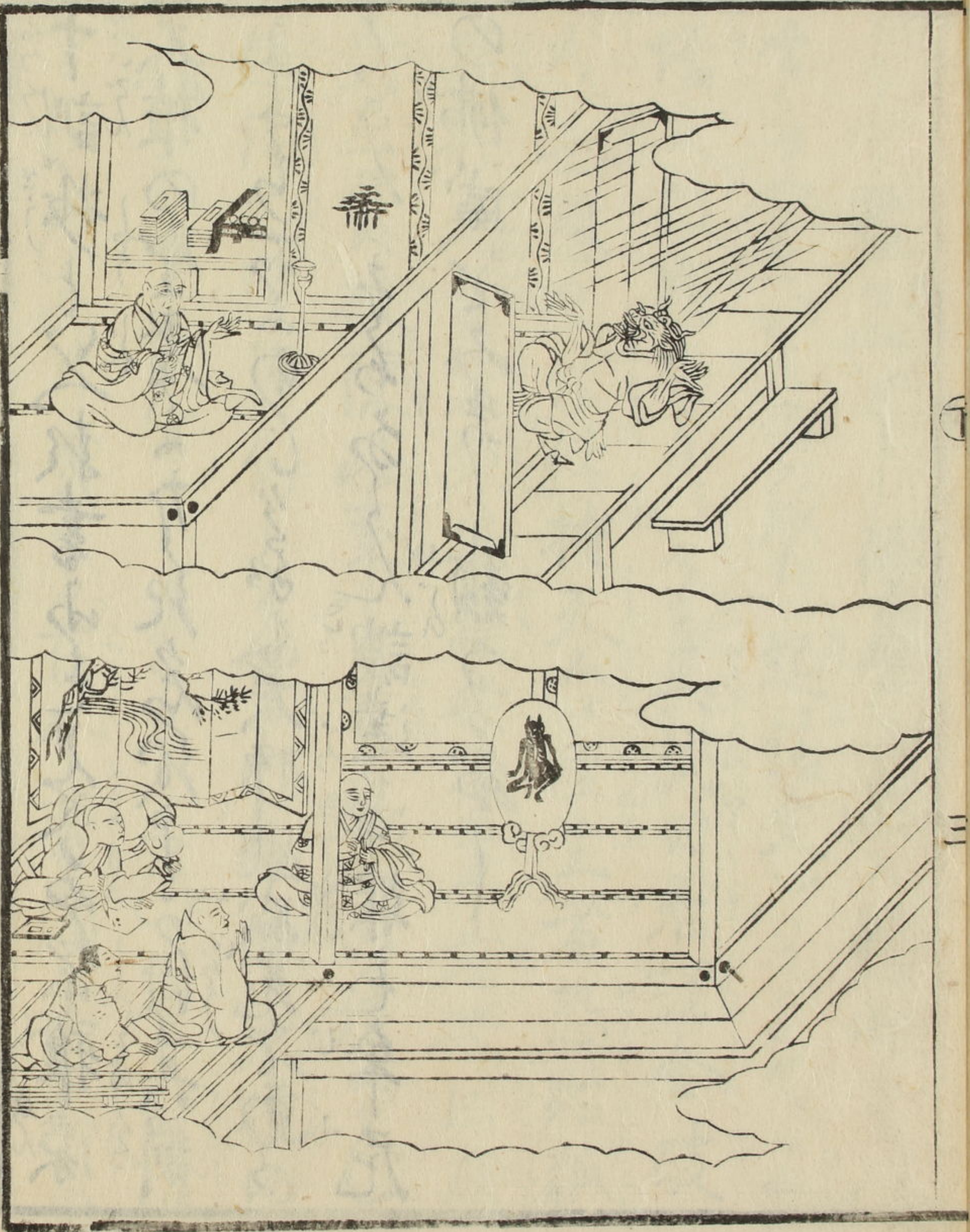


唯圓教意 是即 是須との 結ひ 試みる
左の小指と 出し 結ひ 舌痛
遍身と 入り 舌に 圓融 之諦と 観
多 弾指し 結ひ 疫神と 結ひ 結ひ
此おされ 腰と 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
と 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
ふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふ

夫乃 病状と 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
夜叉の形と 現し 鏡に 映り 結ひ
くちひひての 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
不和 邪魅 未済と なく 疫災と 結ひ
りんと 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
美民 茅屋の 龍山 今も 結ひ 結ひ
なれど 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
さいり 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ
なふの 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ 結ひ

より一虚名とす付めりたると昨世より
受あまきいこと成り起信文とすこと
塔も披露せしむる其詞曰若謂令破
戒無慙之僧任持天台座主者恐貽祇
疑於先賢方致狼籍於後輩者歟曰茲
對三寶披陳此事と書終ふの後あり
起信文のしめりたる也とて雅縁の
人よそより事とす付めりたると
とらふひありあたる古今著聞集とす

十訓抄とて教書ゆも見く多架雅縁
大権の聖者よかり名成りけ其罰
よさらしああひも大師は威光とあり
もさ人よああ人調達が逆罪も牟尼
の佛威とみ来り類する也



寛和元年正月三日... 御号と唱へん... 實相院... 釋家... 雲庵... 異香室... 雙林... 洞水...

波又日が禪母よりと人波と魚をりり。沙
ふくくからあうふくく衆徒もて衆人誦
結縁とすくくくそ志もあうね。又日とそ
横川よりくくく此岸小母をりり。然れ
際本所如意輪小母度とくくく以種
遊諸國土の應用云邊りしと或時の子本
十面又或時勝軍地慈不動も影
実花めして一紙の肉小御形とほくあ戒光
ゆくい梅樹のくくと死の光と教を月

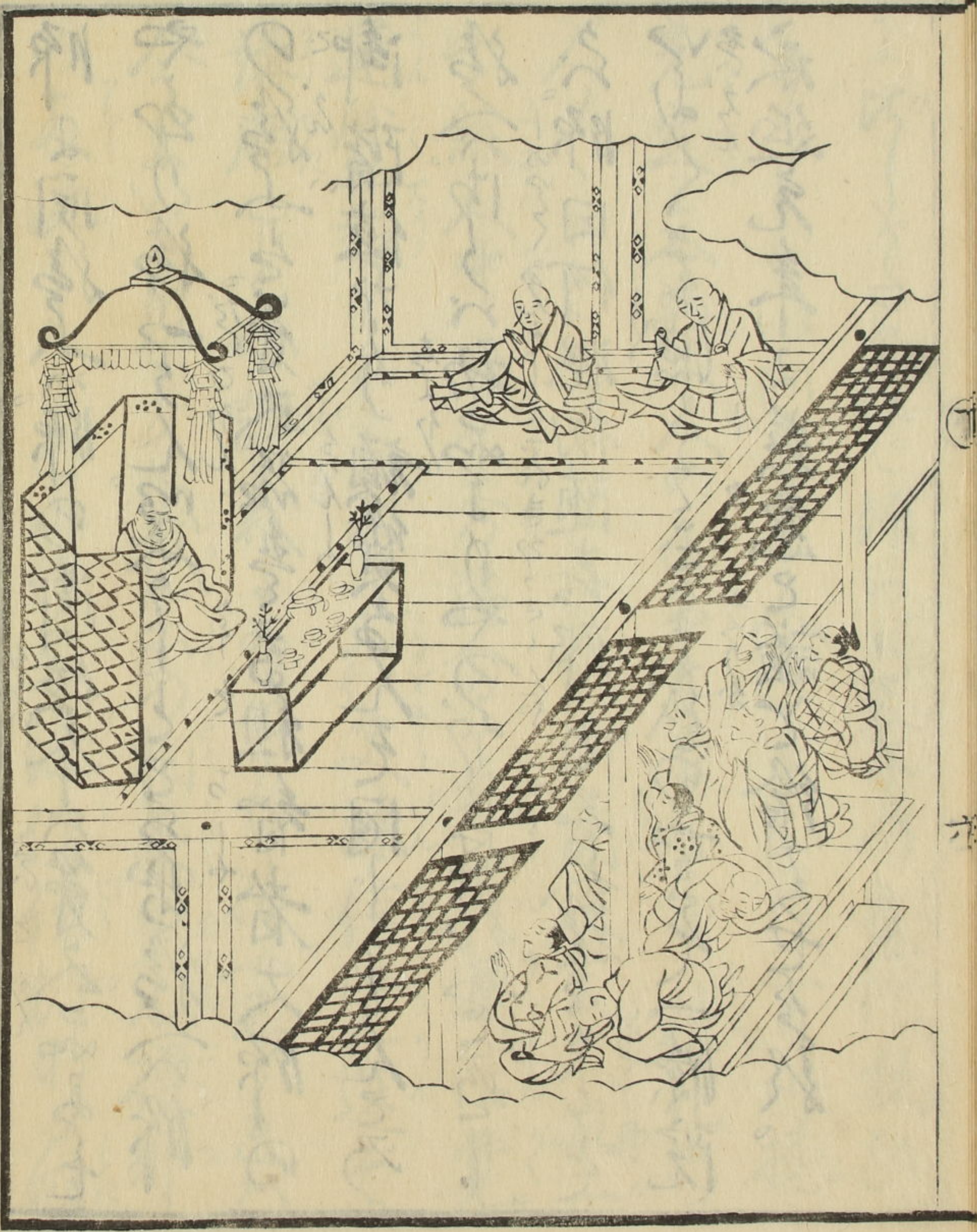
まぐ肥後の國より神明とありこれ下野
園とて花の夜叉と現と給ふ同じ比ひ
義昭法藏良源とて九條の右相府ありあ
給ふ二人のき僧ありくく何人乃後三人
僧の三光天子は密迹して世小く群生
と利益と給ふと見くく清涼の輪席
維摩志會場小義昭を法花も昨り屋
伏せくく衆星はあひつくなまを朝日小
光とくくく花氣皎潔多敷鳥梅は太陽

下 五

よびしごとされだ師の日天子乃應化類ひ
あしとぞいひるる人たり正月二日小掩
先定入給ふ人の由もあざるゝ又権化乃
んくもをゆりくゝ敷御門後志大原二
千餘人中少毛秀給ふ尋禅源信覺
運覺超とぞいふもつら從又源信覺運ぞ
講席とふ証義よあづり給ふ志もいハ
今よいつて教もて我宗の相兼惠ん檀那
の支流とらるもふけふ源信僧教あり耐

師は同給ふ師の御位今ハ等又ふも
やあり給ふ人いふととら秀給ふ師
の給ふと等又品もも祖智者大師の
御階位かり顔質もんと目とらるんと
給ふはくは初品よりやのりせ給ふを
久師曰何兆初随嘉耶と量給ふを
いふくま徳とらるる一院
承延元年は慈惠と謚と給ふを

年々歳々相隔と云ふとも靈神不測を
 幹力影像威験乃利益日増し月小
 盛なり。妙強と云ふとも人とも同り
 凡耳よも多てる九牛が一毛と云ふとも
 六条院乃浄宇小や陸奥國平泉の郡
 柳と云ふ里の勇士れ女老童小鬪髻と
 化し多法華經教へ給ふ多しと云ふ撰
 集抄よ凡く多り。後法藏院蓮實房の
 大師と撰写しを多しと云ふこの院宣



彦王二品親王尊覺より位下にて綿帳
と御寄付ありし小寺うらに慈惠大師
宝小捨入と震筆と深くまらぬ又
後深草のみごとく叡岳は隆幸ありて蓮實
房乃大師忠孝像と由多つて摺らせ給ふ
く御幸とて御形と新らせ給ふと
佛像御言崇ふ心く侍るおれ
みどりの御宇寶治元年の海くく疾疫
母ありて人母りて死し三月二日政宗

位く慈惠大師の孝像とよとせ給ふ疾
疫とらまら居る同く廿八日將軍家御
いのれ帝小一乃躬の孝像乃摺写する
とそお軍の頼嗣朝臣執権を時頼等
たりけあ目東鑑りあるとあり
後宇多院の式と由自製あり候
南無慈惠大師と何そとて毎月
三日小大師の儀演とてかた來給ひ
とそ人此奉十儀論補助義の卷

記せり。

いさこれ御時ゆ大原真現し給ふを我
新像瓜文中は安んじ給ふ玉祈安徳し
守護しなるとありし六別今も
まで文中は安んじ給ふ神はさ乃折
くへの般舟三昧院より給ふ神はさ
さぬまは又もの中に入を給ふ又権大納言
雅親朝臣飛鳥井法名をよせ乃奇仙めく
世よこころえある人なりし大原の信敬

人よりこころめて新像描写絶どしり
とこなり給ふは給ふの都れ集りいそ
慈惠大原忠為像を毎月あなとり
あてしものあしはよ玉祈より
めその外はさくははは徒類乃あ
又あなれ門弟といの教事多年
なりゆりぬとを病ころがそく侍
りしもあも又折あてしつれそ心
はらも汁あ



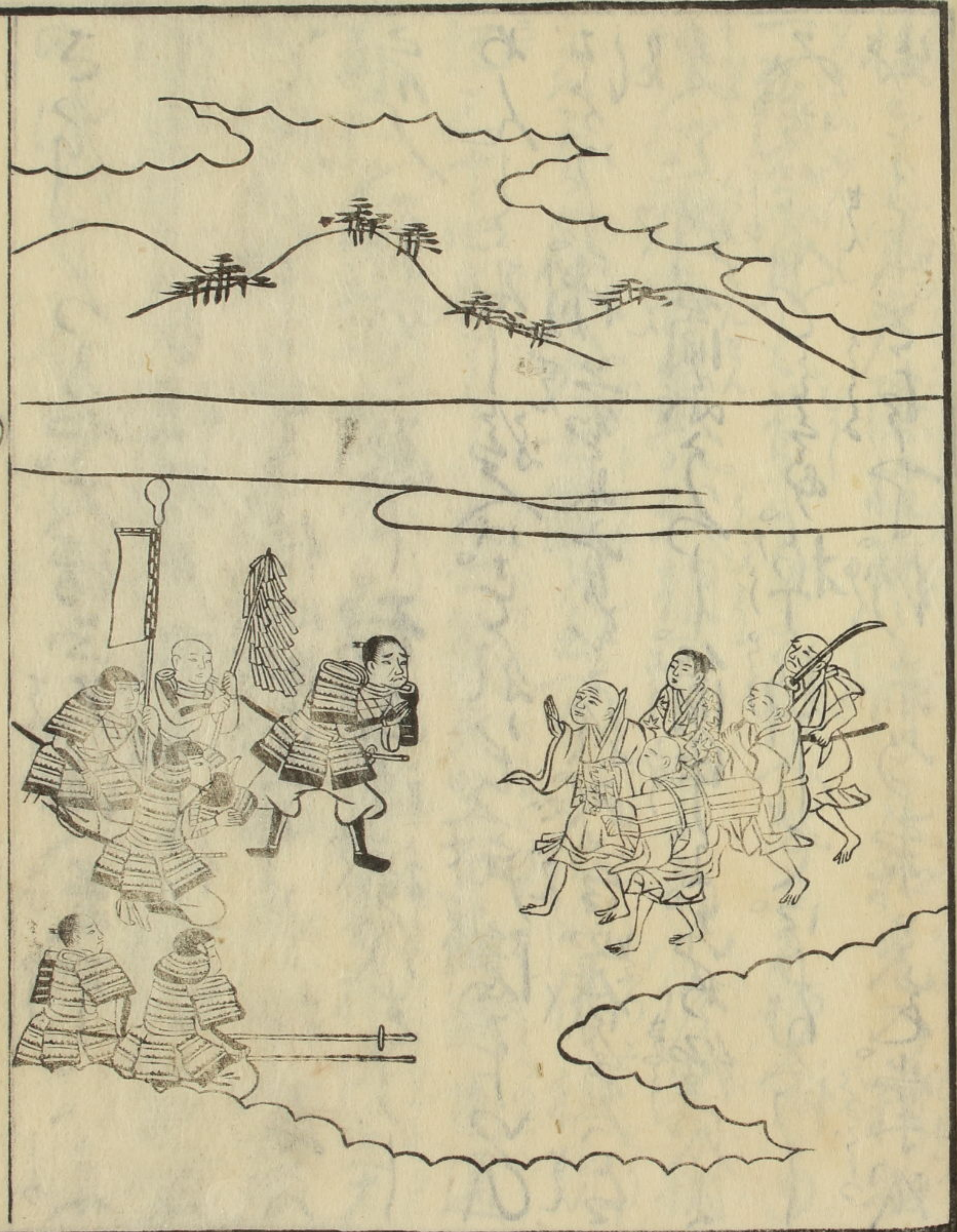
我身一人の事し後ろと物もくも
 いづらも病いふも成せし世にゆ
 亦く如んちりしとた婦人ばこのの代り
 大匠と号敬し今ふりてのましく新像の
 摺写ゆえにびとさあひ給ふ。

仰木の村とて入野田の浦より漁舟よる月
さして湖東よりのしこ同くは額田井の庄
とてふ所ありとてあつる地とあてせむ
その後山再真ありて天正年中福成坊の像
とてありて横川小還庵ありて今よ四季
儀堂よ安堂一なり又民部北法眼が
うのしやありて壺像ハ湖東より保勢園
阿野津よ越一なり西来寺とてよ寺
よとて人をもちり山よりなむくあり徳丸れど

のちあまの宮ありしてさうふうをひくとして
年月とありて寛永十七年將軍家光
公令嗣御誕生のいのちとありて前大僧
正天海り徳尚山よ安堂一丹精一徳
小八月三日と平らふ生もてせ給ふ
とて師お胎の嘉辰宅山入寂よりて
かて三日辰期日とせりこの君北御誕生
偏よる像の馬給よて侍り天海門才よ
遺言一給よ奉山乃例よ海よ衆よ

列りより其まくせ給ふ真まこと新あらた當山あたか房ぼう二十日
が從したが巡めぐ番ばん執事しやくじ一ひともく一ひと大だい権けんの聖せい
像さうとなしむらんそのとをさるゝに
あゝねど我われ頭がう像さうを法あはよ志しをひてさる
大だい樹じゆの御ご武ぶ運うんと守まもり國くにを饒にぎと争まをす
佛ぶつんとぞ世よれより衆しゆ人じんあやとくをひ掌て
と合あ衆しゆいのりともよ所ところ預よめらるゝ
よ成就じゆじゆしてあゝ難がた人ひと一ひと利益りやくとや
こゝ給たまへとびりより番ばん畫えせし靈れい像さう

あまこ侍さむらいの中なかよ竹たけ林りんの新あらた像さうへ眉まゆ毛げと
又また采さいの内うちよぬき出でし給たまへこの御ごまみ
毛げがまのおしく衆しゆ魔まをそれとて
ゆふよりあまこと降くだ魔まの大師だいし乃なり新あらた像さう
とあひらるさう花はな林りんのくはるくともはる
本の紫むら乃なりちりちりあまことあまこ
人ひとあまことのぼりしとせしあまこ
あまこを今いまに本ほん葉は乃なり御ご新あらたと名なづけ
あま降くだ魔まの本ほん院いん水みづ台だい本ほん紫むら乃なり周しう院いん



東谷ひがしや養林ようりんのふるま舊跡せうせきよりあんなら今安曇いまあづみ——
 東谷養林の舊跡より今安曇——

さつりごらあも。大僧正天海(あいち)に
はせつりごらあも。大僧正天海(あいち)に
と我(わが)おり。おき。信心(しんじん)堅固(けんこ)の。掉(たう)おせ。六
宿(しゆく)人(にん)不(ふ)然(ぜん)の。應(おう)ト。吾(わが)函(はつ)禍(わざ)福(ふく)瓜(か)志(し)了(り)し
わん(わん)と。あ。給(たま)へ。ば。と。れ。り。ち。戸(と)隱(いん)り。い。ひ
は。ら。り。神(かみ)前(まへ)も。有(あ)り。又(また)言(こと)四(よ)句(く)を。ん。と。白(はく)
文(ぶん)と。竹(たけ)筒(とう)ふ。う。り。筒(とう)中(ちゆう)よ。あ。り。經(きやう)瓜(か)よ
み。密(みつ)呪(じゆ)と。し。め。掉(たう)動(どう)し。て。は。ら。り。し。り
出(い)で。る。籤(せん)と。し。り。了(り)す。終(しゆう)末(まへ)乃(なり)末(まへ)と。も。掌(てのひら)瓜(か)

指(さし)ご。と。し。り。戸(と)隱(いん)檀(だん)現(げん)と。師(し)と。の。和(わ)光(こう)乃(なり)利(り)物(ぶつ)
一(いつ)祈(いのち)分(ぶん)身(み)と。首(くび)り。り。云(い)傳(でん)人(にん)を。る。も。ひ。な。り。
押(お)し。け。観(くわん)音(いん)籤(せん)の。我(わが)朝(あす)の。し。め。あ。り。は。異(い)朝(あす)
よ。ん。そ。名(な)瓜(か)大(だい)士(し)籤(せん)と。云(い)へ。り。さ。後(ご)バ。佛(ぶつ)祖(そ)統(とう)
記(き)三(さん)十(じゆ)卷(まき)り。大(だい)士(し)籤(せん)天(てん)竺(ぢく)百(ひやく)籤(せん)越(えつ)圓(えん)通(つう)
百(ひやく)三(さん)十(じゆ)籤(せん)以(もつ)交(かう)吾(わが)函(はつ)其(その)應(おう)如(に)響(きやう)相(さう)傳(でん)是(ぜ)大(だい)
士(し)化(け)身(み)所(しよ)述(じゆつ)と。云(い)へ。り。大(だい)師(し)既(すで)に。観(くわん)喜(ぎ)大(だい)士(し)の
化(け)身(み)な。ま。は。宋(そう)地(ち)乃(なり)人(にん)作(さく)れ。記(き)又(また)し。め。と
の。は。ら。り。合(が)符(ふ)と。り

定心房經藏の法會或謂元會 年毎の正月三日
小執約し給ふ座主より藤原の回文獻後
よそからし勅會に御法事今も御り
もて絶る事ありされば祈禱の事ありとて
公武の人々執約を御中におも定町
將軍家度と勅させ給ふりちるは
東照大権現御子孫繁栄御武運延久
の由いりりて天正年中あな
齋會とりとこなり給ひしは靈験

よりとあく天ヶ下乃武將とるり給給ふ
く御おういよくいへ代を櫻よふのり
大樹根並させ給ぬ大和給ぬいよたは
る藤原のありしを武威よまらつとと
以事なり。まお薩列の中納言家久島津氏
とらど免武門の人々此會と勅あふ事
敷多く侍給
寛永年中の事やゆるじ河内は乃
民横川よゆうで我稻田早水あを

又抄りど比りひ越前屋よ疫災とせり
 く國人とせり身中より一人患小工
 あり終らる記此山よやどり元三角形の
 御影取束てゆり門よとせりきるめ前
 後左右の隣家まごららひひそは
 よこの敷此人一人も屋じとれしきく
 らのりあまごむの影像とみりて板
 ようり抄写しとく人ごまつりもめ
 としかり家大くまらうたはるめりてり



小病しも死と心と共なるる國
を守護し奉りてはよきなり
新像のまこととせ人衆よとせ方かれ
國中に病禍やとらぬとも今當山あり
もいのりとする人をみごとく中病患
よとりていのりまんと付志さす
んれ肉もあはれとくくぬの治れあや
めともくくで年會し盲者など目疾
すて病しも限日敷の程と經ど又を

みてる目敷よあめりてんあやらふなり
もて形むむ玉を屋よとんくもてあて
ぬ人も月日の光けやうぬみくつた子
年と松のまどりみまへ年とくもあ
もぬそのまじりい表とてなふたの事
も打とてくまをたぐく新なり
新のいのりも奉りてはよきなり
芦田鶴れ雲井とくもあやぐく
もなんまらるあるは又実徳と福がひ

下 一七

徳宗の祖師そしをあも勅号ちくごうありわらざ
きどもも。法ほよりの法ほく。世よ舉こ
く大師だいしと稱しょうとる人。あも侍しり。そ
至徳しとく乃のと取となれ。勅号ちくごうあり。そ
くふ。あも。り。さ。か。法ほ學がく曲まが儒ぶ乃
水みづも。う。う。な。ゆ。法ほも。く。併あ法ほを
名な矣やと。さ。み。せん。の。あ。後ご。り。起おく。
あ。の。偏言へんげん。邪詞じあ。名な。著作しやくさくと。あ。傳でん
教きやう弘こう法ほ。慈じ覺かく。智ち證じやうも。天物道てんぶつだうと。抄しやうる

あど記きせり。あめ大師だいしと。い。俗傳じやくでんして
魔界まがい利益りやく乃のく。天物道てんぶつだうと。入い給たまふ。あど。
私稱しせうして。傳でんと。い。實録じやくろくと。い。さ。う。よ。ん。て
とい。ん。や。は。大師だいしの傳記でんき。一ひと所ところ。あ。も。天物道てんぶつだうと
る。法ほ。給たまふ。と。い。ふ。事こと。な。い。い。多おほく。中ちゆう史し書しよふ
侍しり。あ。も。ん。あ。の。つ。れ。い。あ。見み女によの。り。く
あ。そ。び。よ。す。あ。る。草くさ子こと。い。ふ。物もの。ふ。ま。あ。り
侍しり。と。い。ふ。の。う。つ。不ふ。竹たけと。い。ふ。や。う。の。た。だ。い。あ。り
へ。ま。し。は。は。い。と。い。ふ。を。あ。が。り

一條院永延元年春二月詔勅曰故大
僧正垂跡浮世棲心常樂智惠之水波
澄邪見之林煙微久居台嶽之貫首深
貯法藏於唯心況乎自朕誕育之初厚
其護持之慈而忍辱之衣永隔慕戀之
襟難忘其人爰在其懷可酬宜加褒崇
謚曰慈惠

古來嘗有慈惠大師傳兩卷高議玄

Handwritten text in cursive script, likely a transcription or commentary on the printed text on the left page. The text is written vertically in approximately 15 columns.

論不便愚蒙之所覽於茲拾事於舊
記移漢字于倭語且命畫工住吉具
慶每事分條而圖其景象蓋欲使白
俗之徒仰摧化無窮之妙用得現當
不盡之利益也只患予素不文半豹
人鷄之學賤言陋語不足盡奇行偉
德矣有博識之士繼格之者幸甚

沙門胤海誌大

